

数学

北海道大学 総合入試【理系】、学部入試【医（医）・（保健—放射線・検査・理学）・歯・獣医・水産】

<全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	5題
------	------	-------	----

解答形式

全問記述形式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化）

やや難化した感じがした昨年よりやや易化し、その前年の2024年度入試と同程度に戻った。

出題の特徴や昨年との変更点

数列の **1** が文系 **2** と、確率の **5** が文系 **4** との類似問題である。

その他トピックス

久しぶりに確率の問題において期待値が出題された。（**5**（2））

数学Ⅲの微分法・積分法からの出題割合が増加した。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	数列	数学B	見慣れない形の漸化式を誘導に乗って解く問題。解法の流れは1977年の問題とほぼ同じである。	標準
2	積分法 関数の極限	数学Ⅲ	(1)の部分積分の計算における符号ミスには特に注意したい。積分計算がしっかりできれば、極限の部分の計算は難しくない。	標準
3	複素数平面	数学C	(1)は複素数の計算として、自分でうまく設定して処理したい。(2)は軌跡の問題であるが、それほど計算は多くないので、頑張って解答したい。	標準
4	空間座標 微分法	数学C 数学Ⅲ	平面と座標軸との交点を求める部分の計算は、経験の差が出てしまうかもしれない。(3)の処理は数学Ⅲの微分法を使うので、計算力が必要だろう。	標準
5	確率	数学A	問題文にあるルールに則って試行を繰り返す問題だが、(2)の期待値の設問までミスなく解くことはそれほど簡単ではないだろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

今年も最後まで解けそうな問題が並んだが、実際にはなかなか最後まできっちり解くことは難しかったかもしれない。自分の解ける設問は常に正確に解き、部分点を積み上げて合格ラインの突破をめざしていれば、難問が出題されたときでも対処できる。最後まで自分のできることをやり切って、部分点を獲得し続けることができるような粘り強い学習を心がけておきたい。